

5月28日（火）新聞掲載（5月26日の国際交流）

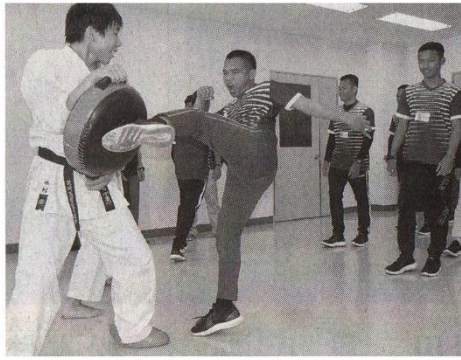
波崎高生、空手で交流

神栖市のはさぎ漁協（石田洋一代表理事組合長）が受け入れた外国人漁業技能実習生と県立波崎高校の交流会が26日、同市波崎新港の同漁協研修室で行われた。インドネシアからの実習生11人が同年代の同校空手部の生徒と交流し、互いの文化への理解を深めた。交流会は、実習生の日本語講習を行った市国際交流協会が主催。同漁協が実習生の受け入れを始めた2015年から、地元の高校生と空手や書道、茶道といった日本文化を通じた交流会を行ってきた。

交流会は、18〜20歳の第5期生と波崎高空手部の生徒6人が実技や日本とインドネシアにちなんだクイズなどで交流。波崎高生の気迫あふれる形や組手の演武に、実習生たちは見入った。実技披露の後は、波崎高生らから手ほどきを受けながら蹴り技にも挑戦。「えいっ」「はいっ」と気合を込めて力強い蹴りを繰り返し、一同で盛り上がった。

実習生は6月から、それぞれの実習先の漁船に乗り組み、実習に励む。

（関口沙弥加）



空手の実技体験で交流する実習生と波崎高空手部の生徒＝神栖市波崎新港

茨城新聞 2019年5月28日

市の国際交流協会が主催した、はさき漁協の外国人漁業技能実習生（インドネシアの実習生１８～２０歳の１１名）と本校空手部との交流会を行いました。「形」や「組手」の演武を披露した後、「蹴り技」を教え、実際に挑戦してもらいました。サッカー経験者などの気迫のこもった「蹴り」に圧倒される場面もありました。空手部も異国の同年代の人と交流し、良い経験になったと思います。実習生には６月からの長期の海洋実習に向け良い思い出になってくれたらよいと思いました。

